

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 日常生活圏域ごとの状況

三田・三輪南圏域

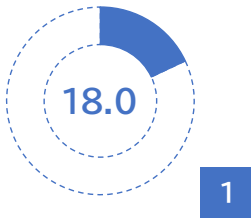
・単位はすべて%

・■の中の数字は6圏域中の順位を表している

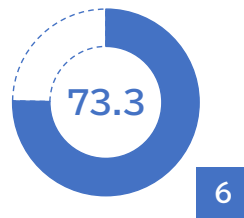
高齢者の状態像

・単位はすべて% ・■の中の数字は6圏域中の順位を表している

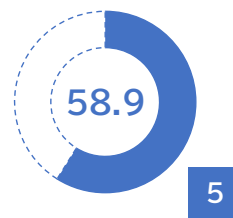
介護・介助が必要な人



健康感がよい人



幸福感が高い人



◆高齢者の状態像

介護・介助が必要な人は18.0%と6圏域の中で最も多く、健康感がよい人(73.3%)や幸福感が高い人(58.9%)は比較的少なくなっています。各種リスク該当者も多く、特に運動器機能(20.4%)やうつ(46.1%)のリスクは最も高いため対策が必要です。

◆見守り等のニーズ

高齢者のみの世帯は63.9%ですが、うち単身世帯(1人暮らし)は22.6%と6圏域の中で最も多くなっています。孤立を防ぐ見守りや声かけ、生活支援ニーズの把握が必要です。

◆外出控え

足腰などの痛みのために外出を控えている人が68.1%と市全体を大きく上回り、6圏域の中で最も多くなっています。外出の際の移動手段として、徒歩で移動する人が64.8%と上位になっていることから、閉じこもり予防のためにも丈夫な足腰を維持する取り組みが求められます。

◆ICTの普及

スマホ等の利用者は77.4%、通話以外でも利用している人が60.7%と、前回調査(71.6%、52.5%)からそれぞれ増加しています。しかし、他圏域と比較すると通話以外での利用が6圏域の中で最も低いなど、ICTの普及率はやや低い傾向にあります。

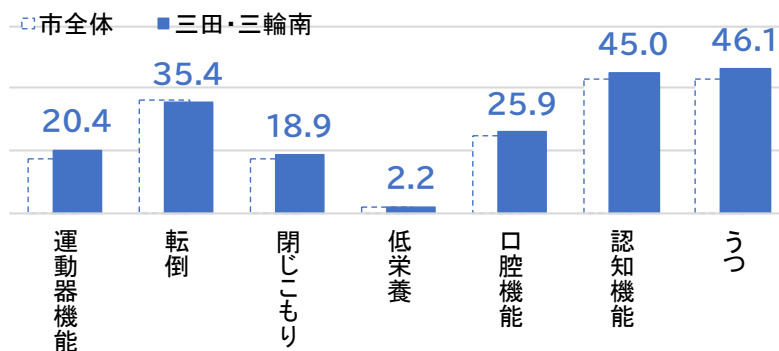
◆地域のつながり

地域づくり活動への参加意向がある人は、参加者として(53.7%)、お世話役として(28.5%)ともに6圏域の中で少なくなっています。地域のつながりが希薄化しないよう、参加のきっかけづくりなどの継続的な支援が求められます。

◆相談支援等

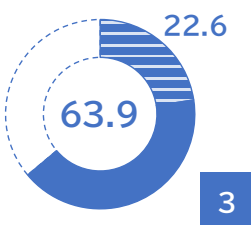
地域包括支援センターの認知度は59.5%と、前回調査(53.7%)からは上昇したものの、6圏域の中では5番目と比較的低い状況にあります。必要な人が適切な支援を受けられるよう、地域包括支援センターの機能や役割を引き続き周知し、認知度を上げることが必要です。

リスク該当者

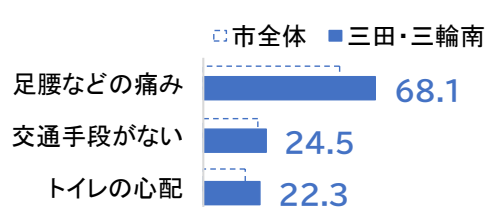


高齢者の暮らし

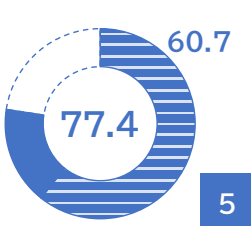
高齢者のみの世帯



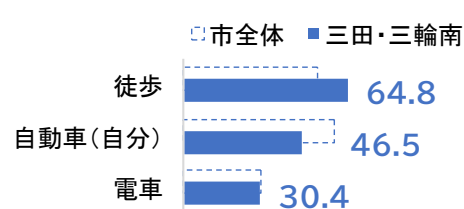
外出を控えている理由(上位3つ)



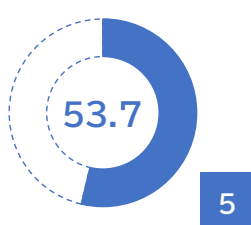
スマホ等利用者



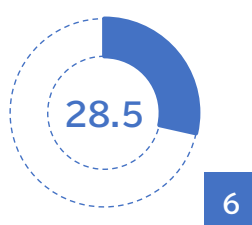
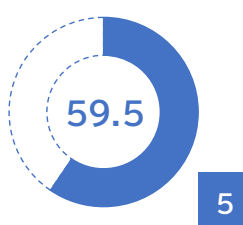
外出の際の移動手段(上位3つ)



地域づくり

地域づくり活動への参加意向がある人
参加者として

お世話役として

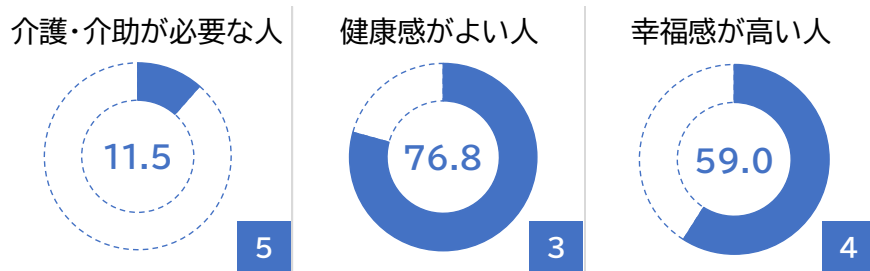
地域包括支援センター
の認知度

三輪北・小野・高平圏域

・単位はすべて％
 ・■の中の数字は6圏域中の順位を表している

高齢者の状態像

・単位はすべて％ ・■の中の数字は6圏域中の順位を表している



◆高齢者の状態像

介護・介助が必要な人は11.5%と比較的少なくなっています。一方で、閉じこもりのリスク該当者が21.1%と6圏域の中で最も多く、転倒リスクも41.0%と前回調査(33.9%)から増加しており、介護予防の取り組みが必要です。

◆見守り等のニーズ

高齢者のみの世帯は57.8%と6圏域の中で最も少なく、1人暮らしも17.6%と比較的少なくなっています。

◆外出控え

自動車(自分で運転)が外出の際の主な移動手段となっており、70.2%と6圏域の中で最も少なくなっています。一方で、交通手段がないために外出を控えている人もいることから、閉じこもり予防のためにも免許返納後の移動支援が求められます。

◆ICTの普及

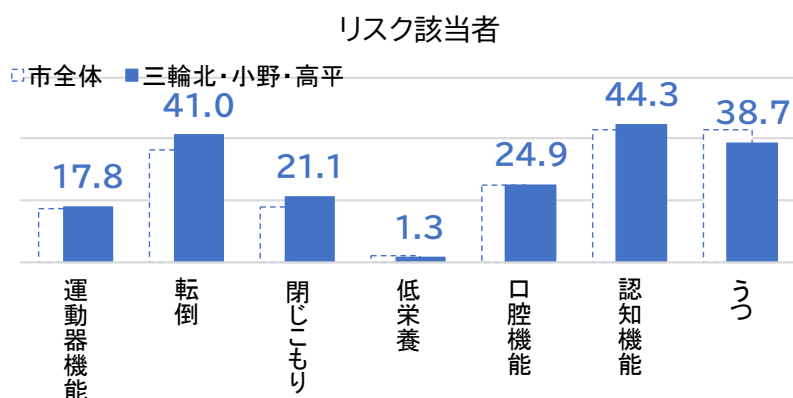
スマホ等の利用者は76.8%と6圏域の中で最も少なくなっていますが、前回調査(66.4%)からは大きく増加しています。通話以外でも利用している人も64.1%と伸びており、徐々にICTの普及が進んでいることがうかがえます。

◆地域のつながり

地域づくり活動への参加意向がある人は、参加者としては少なくなっていますが、お世話役としては33.1%と6圏域の中で2番目に多くなっています。地域づくり活動の企画等を通して地域のつながりが維持・構築されるよう支援が必要です。

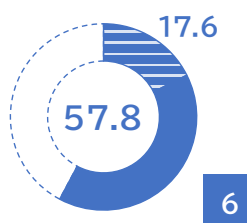
◆相談支援等

地域包括支援センターの認知度は64.4%と、前回調査(58.0%)から増加しています。引き続き、センターの機能や役割を周知し、必要な人が適切な支援に結びつくようにすることが重要です。

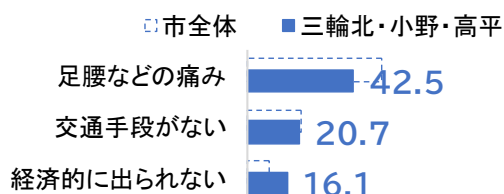


高齢者の暮らし

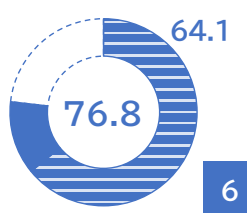
高齢者のみの世帯



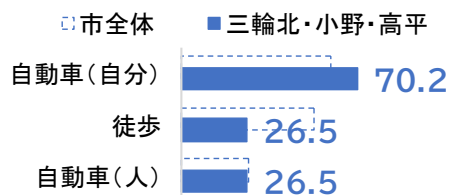
外出を控えている理由(上位3つ)



スマホ等利用者

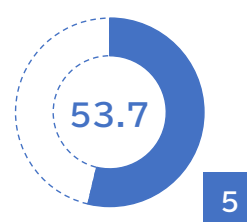


外出の際の移動手段(上位3つ)

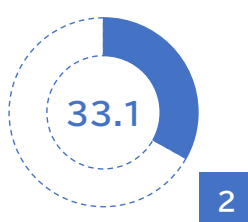


地域づくり

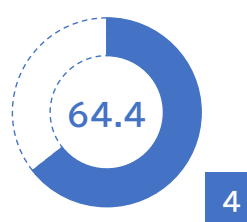
地域づくり活動への参加意向がある人 参加者として



お世話役として



地域包括支援センター の認知度



広野・本庄圏域

・単位はすべて％
 ・■の中の数字は6圏域中の順位を表している

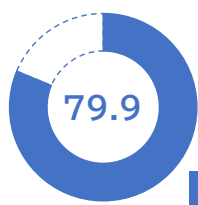
高齢者の状態像

・単位はすべて％ ・■の中の数字は6圏域中の順位を表している

介護・介助が必要な人



健康感がよい人



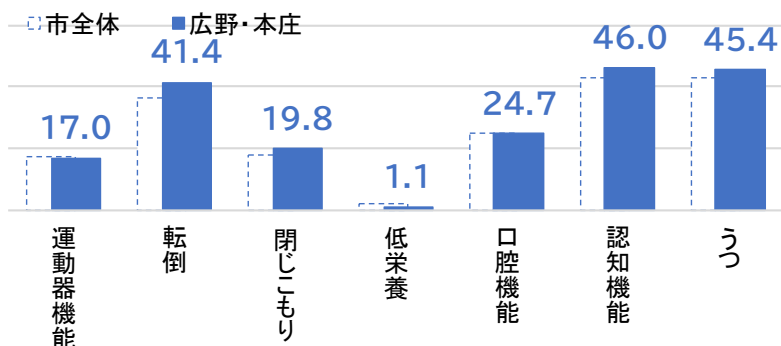
幸福感が高い人



◆高齢者の状態像

介護・介助が必要な人は13.5%と市全体をやや下回っていますが、健康感がよい人は79.9%と6圏域の中で最も多くなっています。一方で、転倒リスク(41.4%)や認知機能の低下リスク(46.0%)が6圏域の中で最も高くなっており、転倒予防や認知機能低下予防の取り組みが必要です。また、うつ(45.4%)も前回調査(40.6%)から増加しています。

リスク該当者



◆見守り等のニーズ

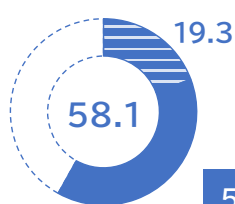
高齢者のみの世帯は58.1%と6圏域の中で比較的少なくなっていますが、うち高齢者単身世帯(1人暮らし)は19.3%と6圏域の中で2番目に多く、生活支援や見守りのニーズの把握が必要です。

◆外出控え

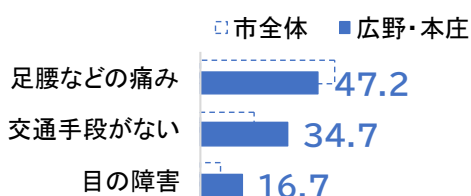
外出を抑えている理由として、交通手段がない(34.7%)や目の障害(16.7%)が6圏域の中で最も多くなっています。外出の際の移動手段は自動車(自分で運転)が67.5%と多くなっていますが、将来的な免許返納などを見据えた移動支援の検討が必要です。

高齢者の暮らし

高齢者のみの世帯



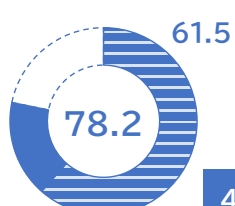
外出を抑えている理由(上位3つ)



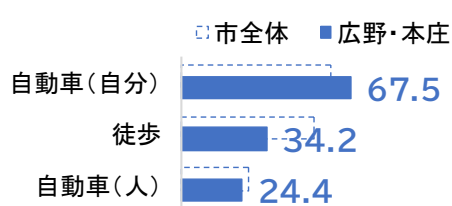
◆ICTの普及

スマホ等の利用者は78.2%、通話以外でも利用している人が61.5%と、前回調査(71.4%、52.9%)からそれぞれ増加しているものの、ICTの普及率は6圏域の中でやや低くなっています。

スマホ等利用者



外出の際の移動手段(上位3つ)

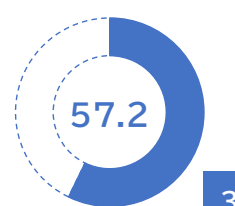


◆地域のつながり

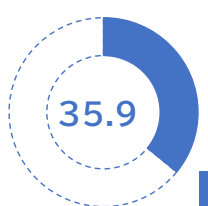
地域づくり活動への参加意向がある人は、参加者としては中間程度ですが、お世話役としては35.9%と6圏域の中で最も多く、前回調査(34.5%)からも増加しています。この高い意向を活かした地域づくりの推進や、つながりの構築への支援が求められます。

地域づくり

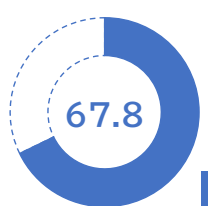
地域づくり活動への参加意向がある人
参加者として



お世話役として



地域包括支援センターの認知度



◆相談支援等

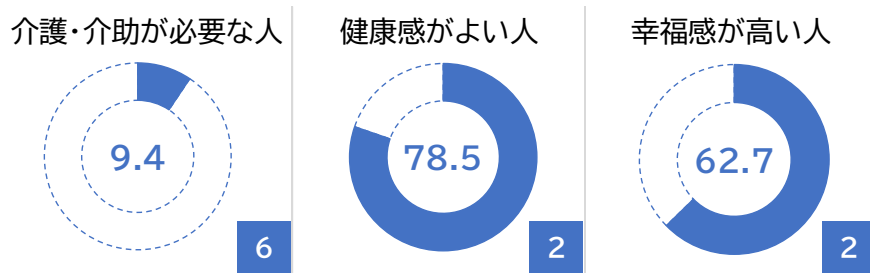
地域包括支援センターの認知度は67.8%と6圏域の中で2番目に多く、前回調査(62.8%)からもさらに増加しており、周知が進んでいます。

藍圈域

・単位はすべて％
 ・■の中の数字は6圏域中の順位を表している

高齢者の状態像

・単位はすべて％ ・■の中の数字は6圏域中の順位を表している



◆高齢者の状態像

介護・介助が必要な人は9.4%と最も低く、健康感がよい人(78.5%)や幸福感が高い人(62.7%)はいずれも2番目に高くなっています。また、運動器機能(14.4%)や転倒(32.7%)など多くのリスク項目で該当者が最も低く、元気な高齢者が多いのが特徴です。

◆見守り等のニーズ

高齢者のみの世帯が66.4%と多いものの、高齢者単身世帯(1人暮らし)は13.7%と比較的に少なく、世帯構成の変化に応じた継続的な見守りや声かけが必要です。

◆外出控え

外出を控えている理由として、外での楽しみがない(23.7%)や経済的に出られない(19.7%)が6圏域の中で最も多くなっています。外出の際に、自動車(自分で運転)で移動する人が68.1%と多いため、閉じこもりを防ぐ生きがいづくりの場や、将来的な移動支援の検討が必要です。

◆ICTの普及

スマホ等の利用者は84.6%、通話以外でも利用している人が72.4%と、いずれも6圏域の中で3番目に高くなっています。前回調査(78.3%、63.3%)からもそれぞれ大きく増加しており、ICTを活用した情報発信やコミュニティづくりの土壌が比較的整っていると考えられます。

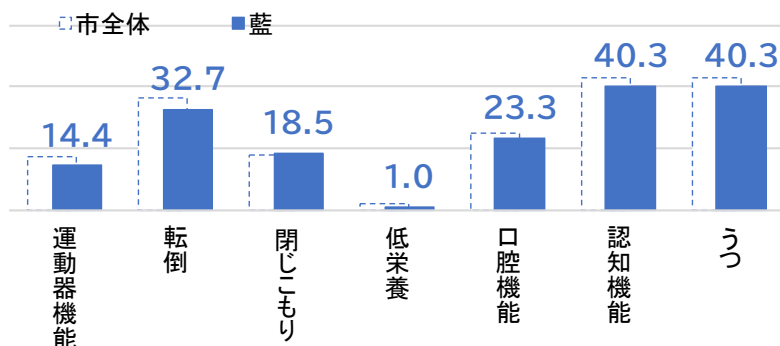
◆地域のつながり

地域づくり活動への参加意向がある人は、参加者として(57.0%)が4番目、お世話役として(29.7%)が5番目とやや低めになっています。元気な高齢者が多い地域特性を活かし、無理なく地域活動に関心を持てるようなきっかけづくりが大切です。

◆相談支援等

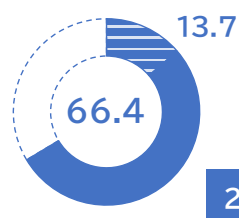
地域包括支援センターの認知度は58.7%と、前回調査(53.9%)からは上昇しているものの、6圏域の中では最も低く、センターの機能や役割についてのさらなる周知を進める必要があります。

リスク該当者

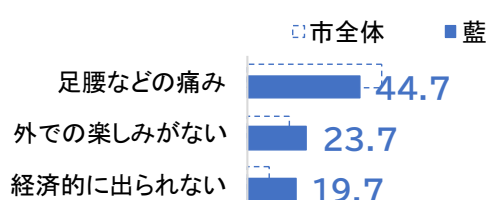


高齢者の暮らし

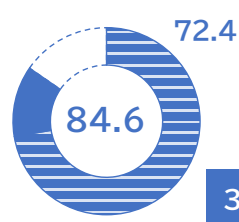
高齢者のみの世帯



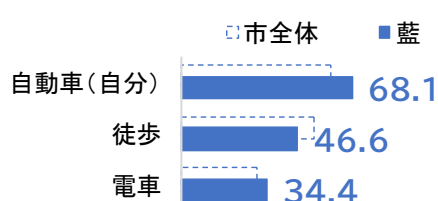
外出を控えている理由(上位3つ)



スマホ等利用者

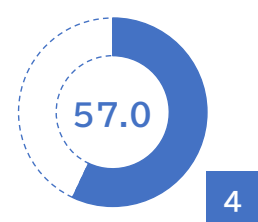


外出の際の移動手段(上位3つ)

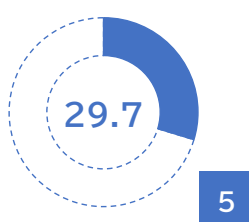


地域づくり

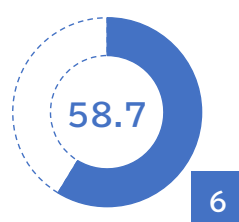
地域づくり活動への参加意向がある人



お世話役として



地域包括支援センターの認知度



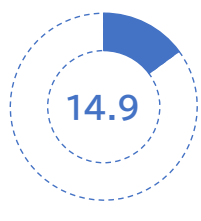
フラワー圏域

・単位はすべて％
 ・■の中の数字は6圏域中の順位を表している

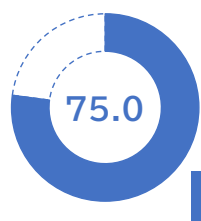
高齢者の状態像

・単位はすべて％ ・■の中の数字は6圏域中の順位を表している

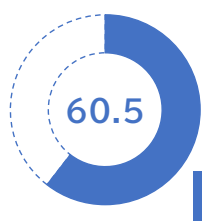
介護・介助が必要な人



健康感がよい人



幸福感が高い人



◆高齢者の状態像

介護・介助が必要な人は14.9%と中間程度(3番目)です。幸福感は60.5%、健康感がよい人は75.0%ですが、健康感は前回調査(79.6%)からやや減少しています。口腔機能の低下リスク(26.5%)が前回調査(21.5%)から増加し6圏域の中で最も高くなっており、オーラルフレイル予防等の対策が必要です。

◆見守り等のニーズ

高齢者のみの世帯が71.8%と6圏域の中で最も多くなっています。単身世帯(1人暮らし)も18.1%と増加傾向にあり、高齢化に合わせた見守り体制の強化や、潜在的な生活支援ニーズの把握が求められます。

◆外出控え

外出を控えている理由として、足腰などの痛み(52.9%)のほか、トイレの心配(22.4%)が最も多くなっています。外出の際の移動手段として徒歩で移動する人(71.8%)が最も多く、路線バス(42.6%)も高いため、安心して外出できる環境づくりが閉じこもりの予防に重要です。

◆ICTの普及

スマホ等の利用者は88.0%、通話以外での利用が79.2%といずれも最も高く、前回調査(82.0%、71.5%)からもさらに増加しています。この高い普及率を強みとして活かした、デジタルによる情報発信や住民間ネットワークの構築が期待されます。

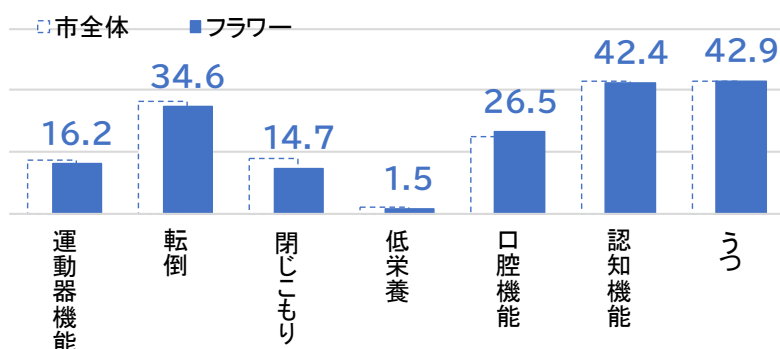
◆地域のつながり

地域づくり活動への参加意向は、参加者(59.6%)が6圏域の中で最も高く、お世話役(33.1%)も2番目に高くなっています。住民の意識の高さを活かし、いきいきとした地域づくりやグループ活動が活性化するように支援が必要です。

◆相談支援等

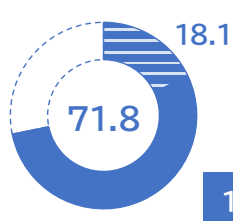
地域包括支援センターの認知度は68.2%と最も高く、前回調査(66.2%)からさらに周知が進んでいます。今後も高い認知度を維持しながら、早期の相談支援や適切なサービス提供につなげていくことが大切です。

リスク該当者

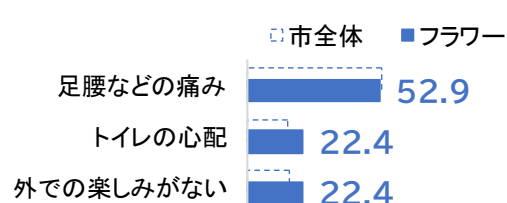


高齢者の暮らし

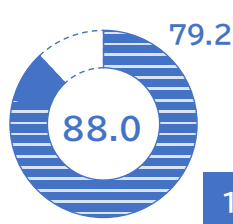
高齢者のみの世帯



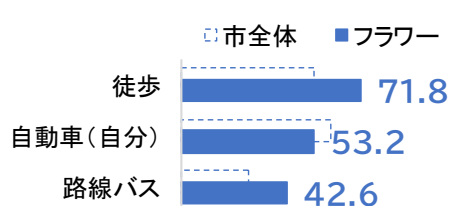
外出を控えている理由(上位3つ)



スマホ等利用者

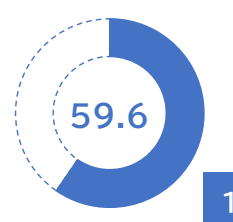


外出の際の移動手段(上位3つ)

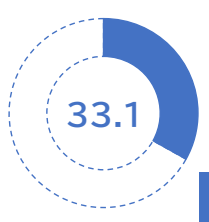


地域づくり

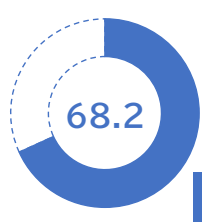
地域づくり活動への参加意向がある人
参加者として



お世話役として



地域包括支援センター
の認知度

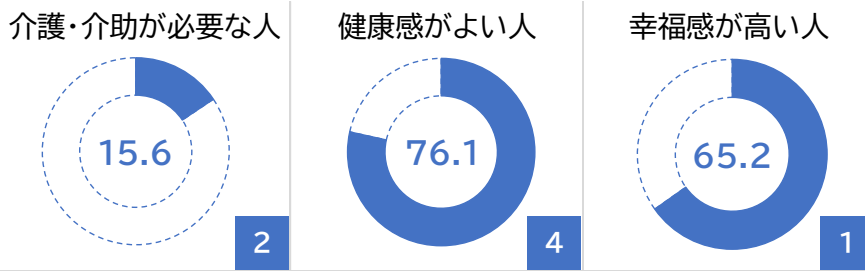


ウッディ・カルチャー圏域

・単位はすべて％
 ・■の中の数字は6圏域中の順位を表している

高齢者の状態像

・単位はすべて％ ・■の中の数字は6圏域中の順位を表している



◆高齢者の状態像

介護・介助が必要な人は15.6%と6圏域の中で2番目に高くなっていますが、幸福感が高い人は65.2%と最も高くなっています。各種リスクでは、閉じこもり(13.4%)や認知機能の低下(38.8%)のリスク該当者が6圏域の中で最も低くなっている一方、低栄養のリスク該当者が3.4%と最も高く、前回調査(1.5%)からも増加しているため、食生活や栄養面へのアプローチが必要です。

◆見守り等のニーズ

高齢者のみの世帯は63.9%と市全体と同程度ですが、高齢者単身世帯(1人暮らし)は12.2%と6圏域の中で最も低くなっています。

◆外出控え

外出を抑えている理由として、足腰などの痛み(63.3%)が上位にきています。外出の際の移動手段として、徒歩で移動する人(68.8%)のほか、路線バス(43.2%)も6圏域の中で最も高くなっており、公共交通機関を利用して外出を継続できるような足腰の健康維持や環境の確保が重要です。

◆ICTの普及

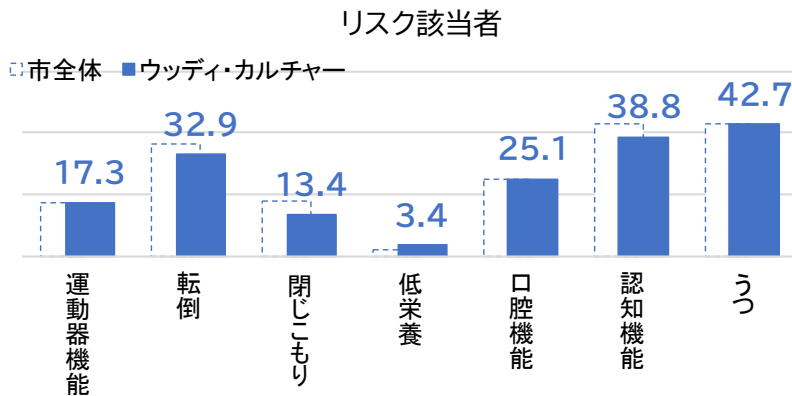
スマホ等の利用者は88.0%とフラワー圏域に並んで最も高く、通話以外でも利用している人も76.8%と高くなっています。前回調査(82.0%、68.9%)からさらに増加しており、ICTを活用した効果的な情報伝達やコミュニティづくりの推進が期待されます。

◆地域のつながり

地域づくり活動への参加意向がある人は、参加者として(57.8%)が6圏域の中で2番目に高くなっています。お世話役としての意向(31.9%)も前回調査(29.0%)から増加しており、これらの意向を活かした活発な地域づくり活動の展開が期待されます。

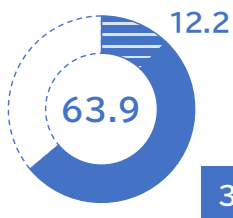
◆相談支援等

地域包括支援センターの認知度は65.9%と、前回調査(60.6%)からさらに向上しています。引き続き、必要の人が早期に相談窓口へつながるよう周知に努めることが大切です。

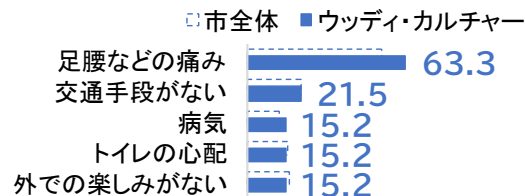


高齢者の暮らし

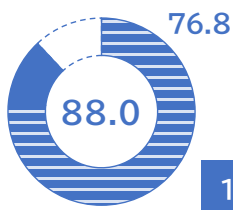
高齢者のみの世帯



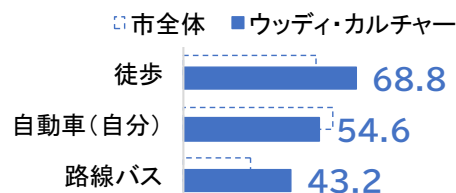
外出を抑えている理由(上位3つ)



スマホ等利用者

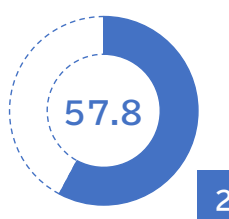


外出の際の移動手段(上位3つ)

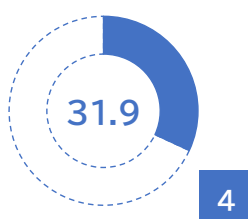


地域づくり

地域づくり活動への参加意向がある人 参加者として



地域包括支援センター お世話役としての認知度



地域包括支援センター の認知度

